

～ 信濃川下流大規模水害に関する減災目標を 達成するための各機関の取組状況 ～

新潟市 P 1

長岡市 P 3

三条市 P 5

加茂市 P 6

見附市 P 7

五泉市 P 8

田上町 P 10

新潟県防災局 P 11

新潟県土木部 P 14

新潟地方気象台 P 26

北陸地方整備局 P 29

(様式2-取組概要)

カテゴリー	要配慮者利用施設及び避難確保計画の作成に向けた支援を実施
内 容	避難確保計画策定率向上に向けた取り組みの推進
実施主体	新潟市

本市では、対内的な「施設所管課への支援」と対外的な「対象施設への支援」を実施し、避難確保計画策定率向上に取り組んでいます。

【策定率の推移】



■ 対内的な支援(市の施設所管課への支援)

- 施設所管課との定期的な担当者会議の開催(R1～)
- 計画策定状況や対象河川等のハザード情報を確認できる「新潟市災害時情報システム」の導入(H30～)

■ 対外的な支援(各施設への支援)

- 施設管理者への説明会の実施(H28)
- ★浸水情報や近隣避難所情報など計画作成に必要な情報を添付し、策定依頼を実施(H30～)
- 市HPに計画の作成方法(計画ひな形及び見本等)を掲載(H30～)
- 計画未策定施設だけでなく、新規施設や住所等の変更があった施設へ計画策定依頼文書の送付を実施(R1～)

【計画作成依頼時に添付している資料】

No	データ項目		出力データ	
	大項目	中項目		
1	施設名		○○○○	
2	施設番号		111111	
3	施設	種別	認知症高齢者グループホーム	
対象災害	ハザード	河川名	対象災害	浸水深
		全河川	○	0～0.5m
	洪水ハザード	阿賀野川	×	m
		早出川	×	m
		新井郷川・福島湯	×	m
		鳥屋野湯	×	m
		矢川	×	m
		鷺ノ木大通川・西大通川	×	m
		安野川	×	m
		能代川	×	m
		五社川	×	m
		太田川	×	m
		小阿賀野川	×	m
		信濃川	○	0～0.5m
		中ノ口川	×	m
		加治川	×	m
		新川・大通川・広通川・西山川	×	m
		大通川放水路	×	m
		新粟の木川・通船川	×	m
		西川	×	m
		飛瀨川	×	m
		木山川	×	m
		東大通川	×	m
	浸水ハザード		-	
	津波ハザード		-	
	土砂災害ハザード	土砂災害警戒区域	×	
周辺避難所	施設名称1	○○会館		
	住所1	新潟市中央区～	距離	200m
	施設名称2	○○中学校		
	住所2	新潟市中央区～	距離	550m
	施設名称3	○○小学校		
	住所3	新潟市中央区～	距離	1000m
備考				

(様式2-取組概要)

カテゴリー	新技術を活用した水防資機材の検討及び配備
内 容	避難施設鍵ボックス整備事業
実施主体	新潟市

本市では、近年多発している大規模災害に備え、令和2年度から下記事業の実施を予定しています。

【現状と背景】

- 避難所施設の近隣に居住する市職員2名に対し、施設の鍵を貸与して夜間・休日の避難所体制を整備している。職員の居住地が避難所施設に必ずしも近接しているとは限らない。
- 大規模災害時には、避難所指名職員自身が被災する可能性もあり、避難所に参集できず、避難所施設を開放できないケースが想定される。

【事業概要】

(1) 目的

災害時、施設管理者が不在の時間帯でも、市職員の到着を待たずに、避難してきた住民が速やかに建物内に退避し、安全を確保できるよう施設開放体制の強化を図る。

(2) 実施内容

避難所として指定している施設を対象に、暗証番号式鍵ボックスを設置する。



鍵ボックスイメージ



事業効果

- ▶ 避難施設の開放体制の充実（避難所機能の強化）
- ▶ 迅速な屋内退避、避難者の安全確保

⇒防災活動の強化及び災害に強いまちづくりへ

(様式2-取組概要)

カテゴリー	共助の仕組みの強化のため、地区防災計画の作成、地域の防災リーダーの育成等を推進
内 容	中越市民防災安全大学
実施主体	公益社団法人 中越防災安全推進機構（共催：長岡市）

【概要】

- ・ 7.13水害や中越大震災など、災害経験による教訓を生かした「長岡市防災体制強化の指針」等を踏まえ、地域の防災リーダーとなる「中越市民防災安全士」を育成するため、平成18年度に開校。
- ・ 「安全」や「防災」をテーマに、専門的な知識や災害時に役立つノウハウや実技を学ぶ市民大学において、防災に関わる人材の裾野を広げ、地域の防災活動や災害時に活躍できる人材、災害や防災の知識・教訓等を語り継げる人材を育成する。

※ 修了者を「中越市民防災安全士」として認定。

※ 修了者は、得た知識等を地元地域の自主防災活動に活かしたり、任意で「中越市民防災安全士会」に入会し、さらに研鑽を積み、地域の防災力強化、防災意識啓発の活動等を行う。

【学習のポイント】

- 中越大震災や東日本大震災の経験や教訓
- 災害のメカニズムなどの基礎知識
- 災害時の対応や平時からの防災対策
- 災害時における様々な防災関連団体の活動

※ 講師：防災の専門家、行政等の実務担当者、防災活動団体

【R1年度・実施状況】

- ・ 対象者：高校生以上
- ・ 日程等：5日間で計20講座を実施
- ・ 受講状況：受講者48人うち42人が修了し、中越市民防災安全士に認定。
うち18人が中越市民防災安全士会に入会。

※ H18～R1年度の修了者数：680人



(様式2-取組概要)

カテゴリー	共助の仕組みの強化のため、地区防災計画の作成、地域の防災リーダーの育成等を推進
内 容	「中越市民防災安全士会」による防災よろず相談、地域への講師派遣
実施主体	長岡市（事業委託先：中越市民防災安全士会）

【概要】

中越市民防災安全大学の修了者有志によって結成された「中越市民防災安全士会」※¹による、自主防災会等の防災活動に関する相談対応、及び、地域の防災訓練等への講師派遣を実施し、災害時の地域の共助実施に繋がる自主防災活動の取組み等を支援する。

※¹ 中越市民防災安全士の有志が、地域の防災力強化、防災意識啓発の活動等を行うことを目的に結成。
現在、6つの専門部を設立し、活動を実施。
平成19年3月結成。令和元年12月1日現在の会員数＝181人。



【支援対象】

自主防災会・町内会等

【支援内容】

- 1 防災よろず相談
 - ・ ながおか市民防災センターに、防災活動の相談窓口を設け、自主防災会・町内会等の困り事・悩み事に対し、自主防災活動に対する市の支援制度や他団体の活動事例の紹介、取組みの進め方等の指導・助言を行う。
- 2 地域への講師派遣
 - ・ 自主防災会・町内会等が行う地域の防災訓練等に、中越市民防災安全士を講師派遣し、防災に関する講話等を通じ、共助による災害への備え等について、意識啓発や取組みへの指導・助言を行う。

【R1年度・支援実績】(R1. 12. 1現在)

- ・ 防災よろず相談 … 支援回数＝69回、活用団体数＝69団体
- ・ 安全士講師派遣 … 支援回数＝99回、安全士派遣人数＝延べ234人



講師派遣：防災に関する講話

カテゴリ	出前講座等を活用し、水防災等に関する説明会を開催
内 容	【防災講演会 ～加茂川水害から50年】の開催
実施主体	三条地域振興局、加茂市

加茂川水害から50年が経過したことを機に、過去の水害の教訓をもとに次世代に伝承するとともに、今年度作成・配布した「加茂市水害ハザードマップ」の説明を実施。また、新潟青陵大学大学院・碓井教授より、災害時の心理状況や避難の心構えなどを講演していただいた。その他、当時の写真を使用したパネル展も同時開催。

【実施概要】

実施日 令和元年8月3日(土) 14:00～16:00
場 所 加茂市産業センター
参加者 加茂市民、近隣市町村住民など 約200名
内 容

- ・記録映像の放映(昭和44年加茂川洪水の記録、復旧工事の状況など)
- ・加茂市洪水ハザードマップの説明
- ・特別講演 講師:新潟青陵大学大学院 碓井真史 教授(心理学)



当市五十嵐副市長によるハザードマップの説明



碓井教授による講演

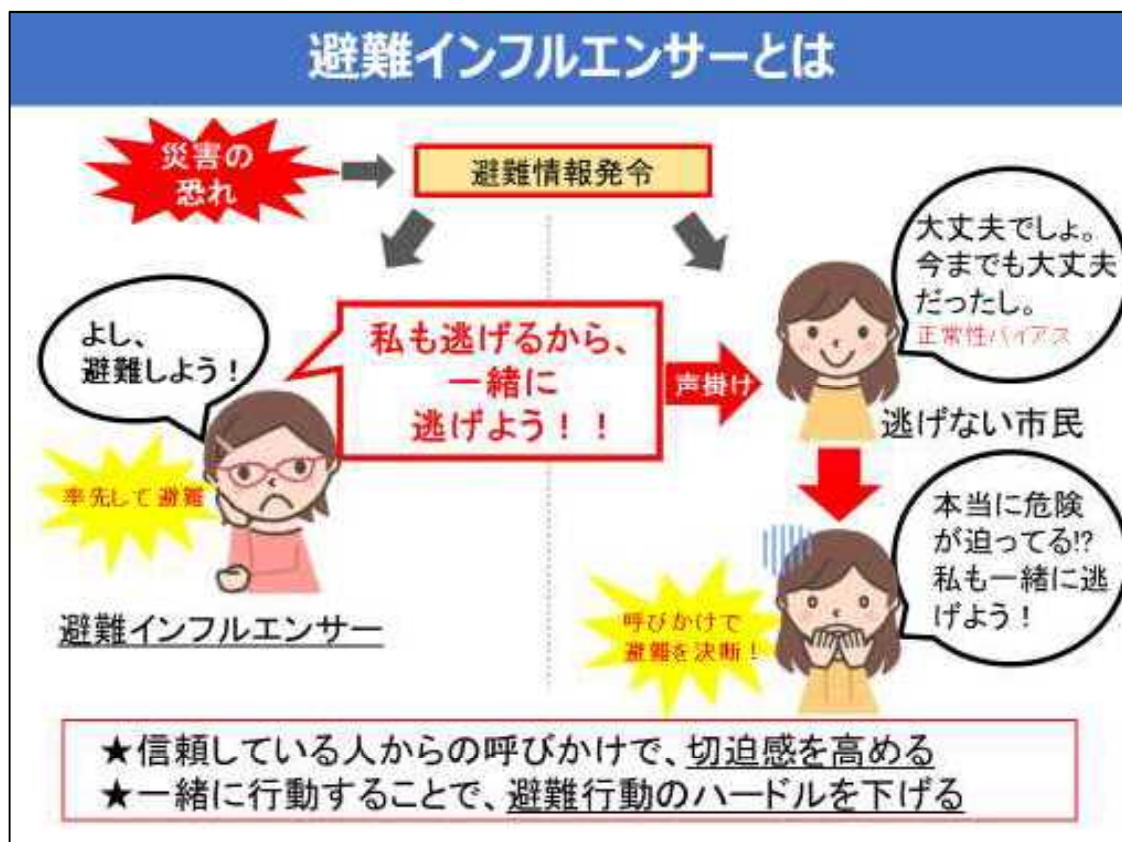


44年加茂川洪水のパネル展

(様式2-取組概要)

カテゴリー	立ち退き避難が必要な区域及び避難方法の検討
内 容	逃げない人を逃がす「避難インフルエンサー」の取り組み
実施主体	見附市

- ・ 災害発生が迫っていても、「正常化の偏見」等によって最後まで逃げない人を逃がすため、「最後の砦」として、声かけによって避難を促す人＝「避難インフルエンサー」を養成する。
- ・ 他の施策で得た「信頼する人からの声かけが行動変容を促す」との知見を活かした取り組み。



①水害時、垂直避難が適切でない町内で養成

- ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域
- ・ 想定浸水深3m以上の区域

②避難情報で声かけ

- ・ 自身が適切に、率先して避難
- ・ 周りに声をかけ、避難する姿勢を見せることで避難を促す

③短時間で全世帯を回れるように人数を配置

- ・ 住宅が密集している町部と離れている農村部とに分けて、かかる時間を想定
→500人程度の避難インフルエンサーが必要(世帯数の10%程度の人数)

④地域で信頼を得ている人を選任

- ・ 区長や自主防災組織会長に選出を依頼
→市に登録してもらう

⑤避難インフルエンサーの養成

- ・ 自覚と防災意識の高さを維持するため、年に数回、啓発広報紙を避難インフルエンサーに配布

(様式2-取組概要)

カテゴリー	出前講座等を活用し、水防災等に関する説明会を開催
内 容	町内会等への説明会等の実施
実施主体	五泉市

五泉市では、自主防災組織の設立支援や防災活動の支援等を目的に各町内会及び事業所において出前講座を実施しました。
【※令和元年10月末現在】

【実施概要】

- ・ 実施数： 15回
- ・ 参加者： 約330名が参加
- ・ 内 容： 自主防災組織設立に向けた支援及び活動支援
各町内会・事業所における防災学習等

＜参考＞H31.4～R1.10の間に新規設立した自主防災組織 4組織 約450世帯



防災出前講座(市内小学校)



防災出前講座(市内小学校)



防災出前講座(町内会)

(様式2-取組概要)

カテゴリー	関係機関と連携した水防、防災訓練を実施
内 容	出水期前の水防訓練の実施、地域住民等との防災訓練の実施
実施主体	五泉市

水防訓練及び防災訓練を実施し、消防団等の防災力の向上、地域住民等の防災意識の高揚を図り、関係機関との連携を強化しました。

【実施概要】

○水防訓練

- ・ 日時：令和元年6月2日（日） ・ 参加者：約240人
- ・ 訓練内容：シート張り工、改良積み土のう工、月の輪工、釜段工、積み土のう工

○防災訓練

- ・ 日時：令和元年6月9日（日） ・ 参加者：約660人 ・ 参加団体：30団体
- ・ 訓練内容：災害対策本部設置訓練、地域住民による避難訓練、災害情報広報訓練、関係機関による炊き出し訓練、ヘリによる吊り下げ救出訓練 等



災害対策本部設置訓練



地域住民による避難訓練



関係機関による炊き出し訓練

(様式2 - 取組概要)

カテゴリ	住民の防災意識を高め、地域の防災力の向上を図るための自主防災組織の充実
内 容	実践的な研修・訓練
実施主体	田上町

各地区の自主防災組織の方や防災士を中心に防災知識の維持、向上を目的としたフォローアップ研修会を実施。

【実施概要】

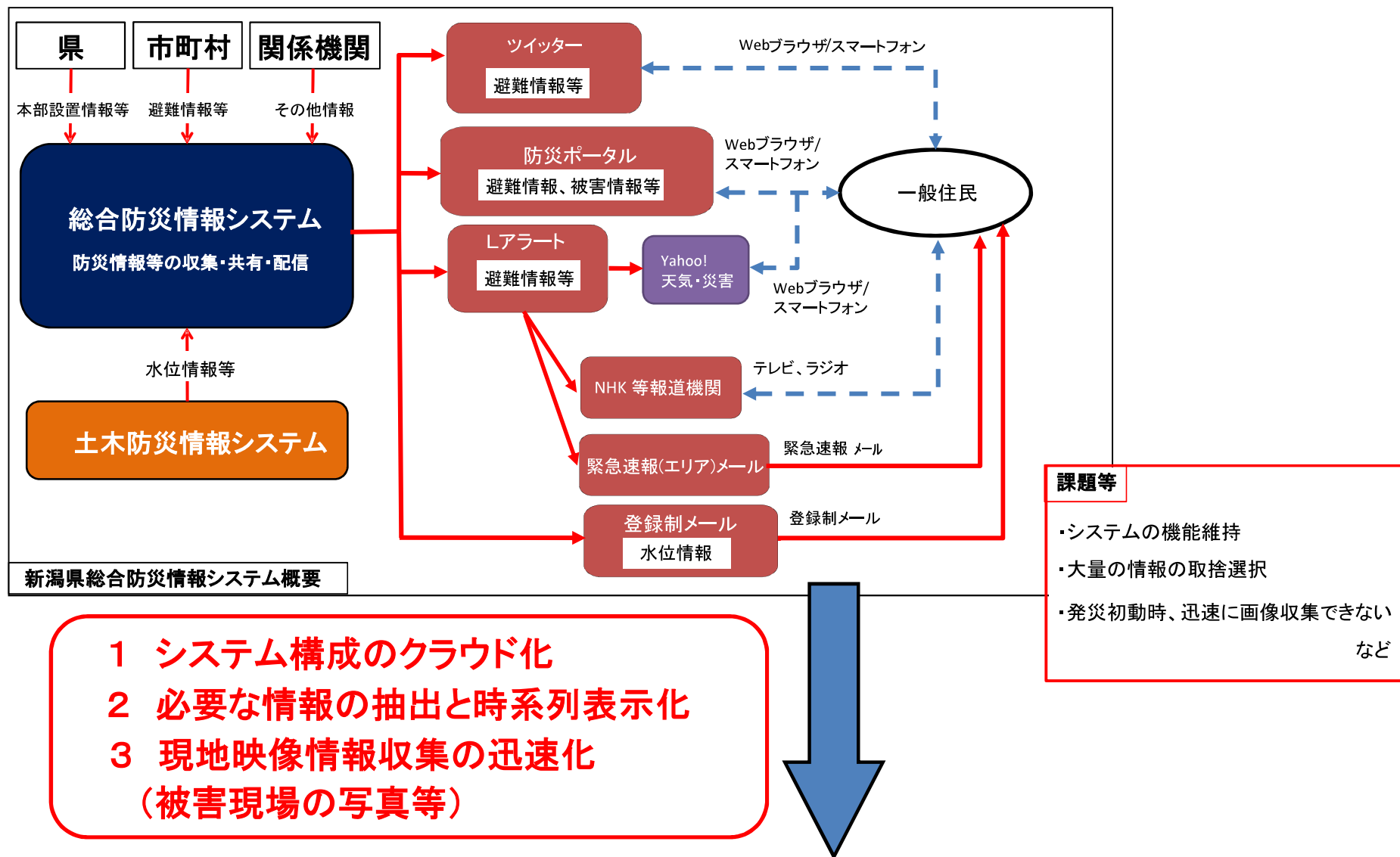
日 時 令和元年6月30日(日)午前9時00分～午後0時30分

参 加 者 自主防災組織の方及び防災士(約40名)

内 容 中越防災安全推進機構の河内氏を講師として招いて、大雨時の災害リスクを踏まえて、それぞれの地域においてどのような避難行動が適切なのか、災害発生時に逃げ遅れが出ないような安否確認の体制づくりはどのようにしたら良いのかなどワークショップを交えて行った。

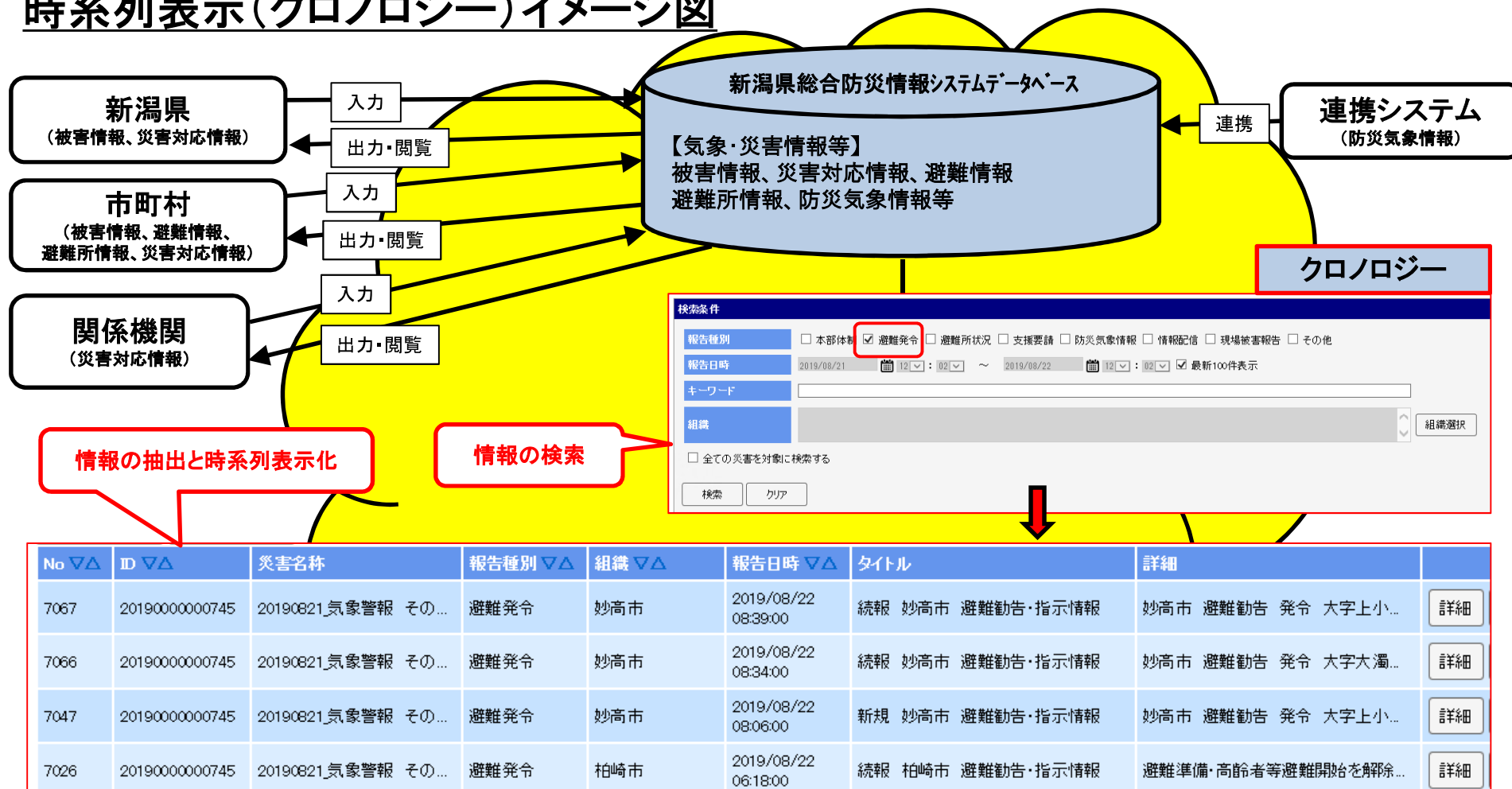


新潟県総合防災情報システムの再構築

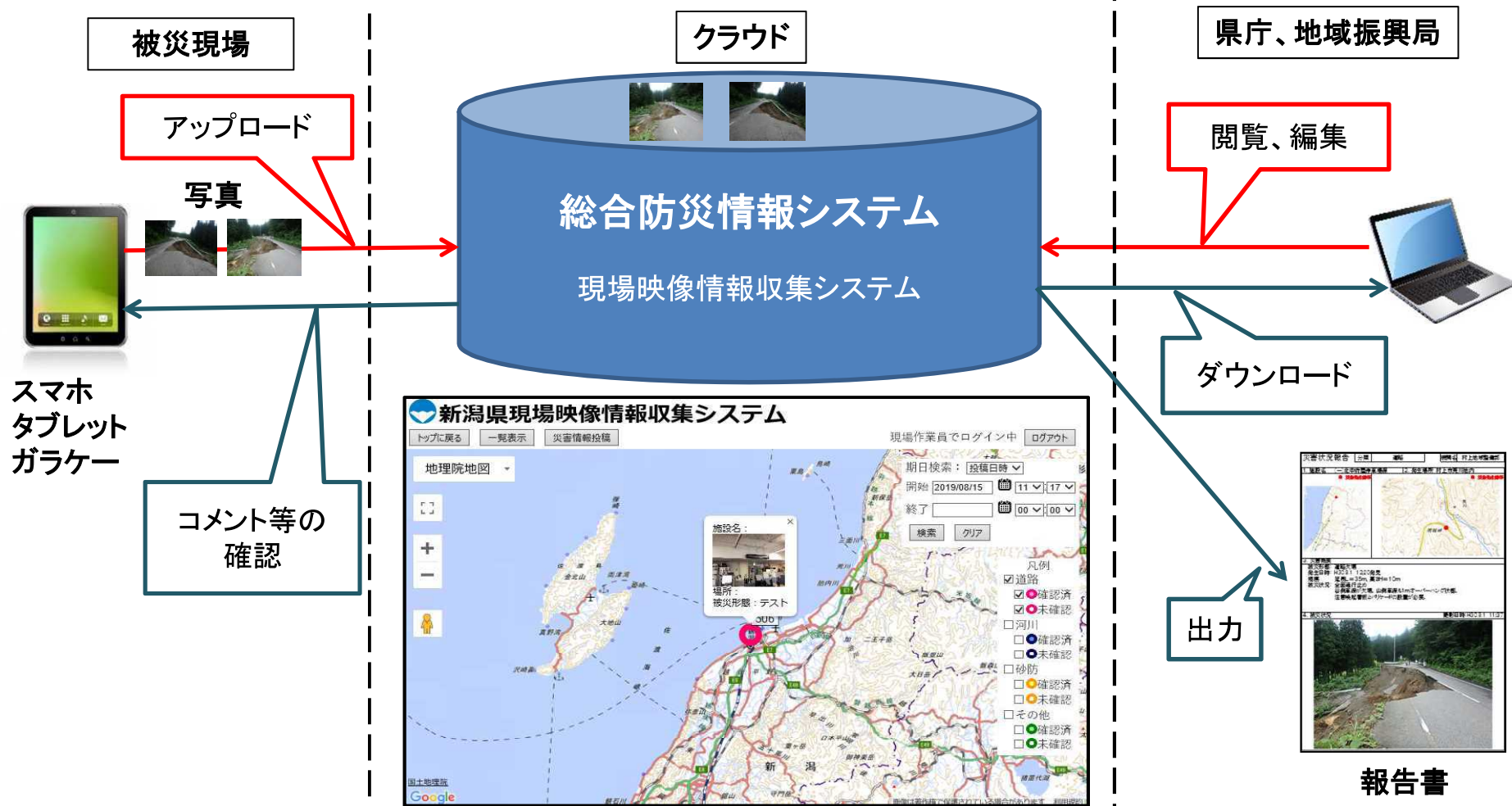


新潟県総合防災情報システムの再構築。新システムは令和元年9月30日に本運用開始

時系列表示(クロノロジー)イメージ図



現場映像情報収集システムイメージ図

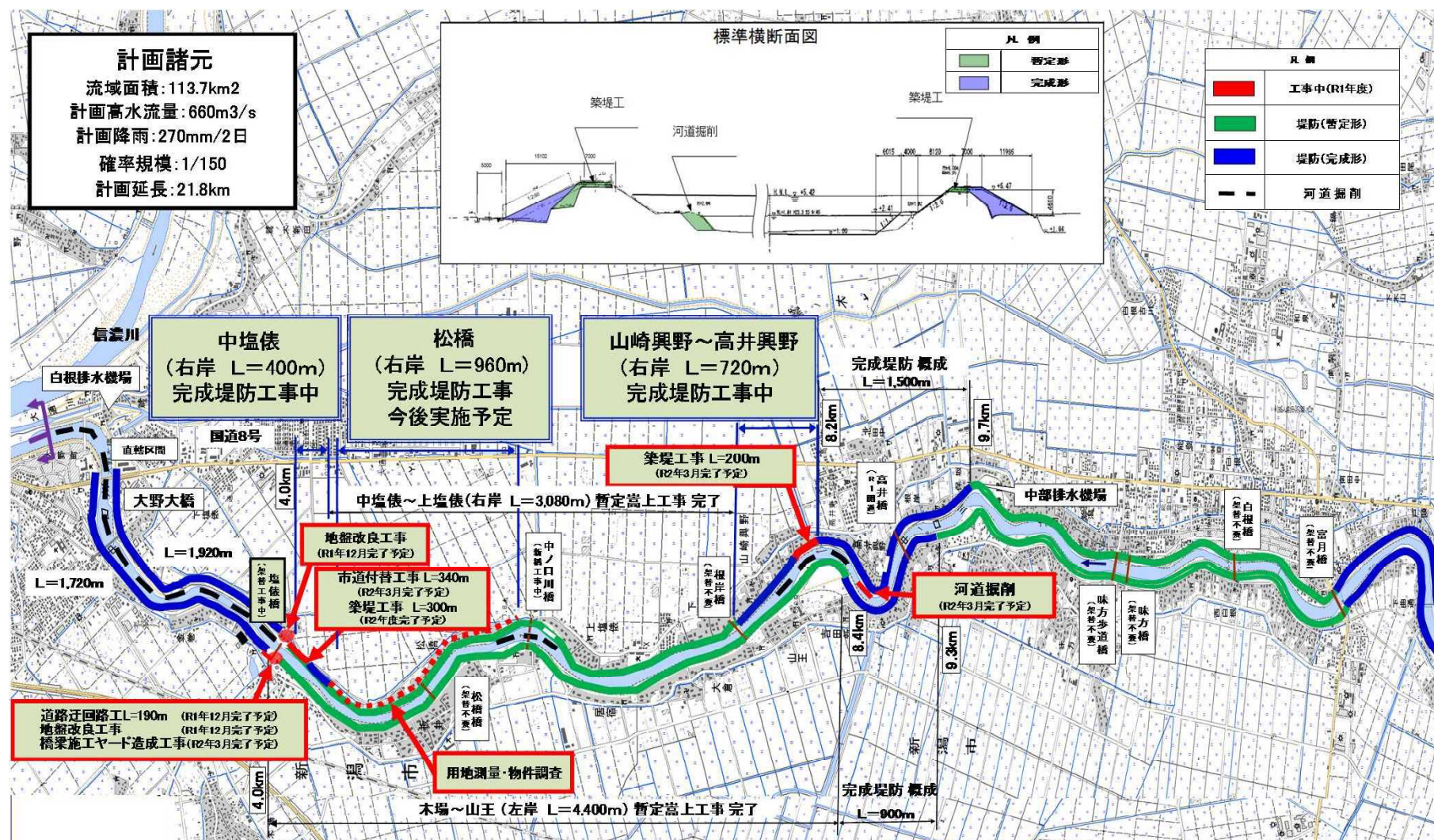


新潟県の取組(ハード対策)

洪水氾濫を未然に防ぐ対策の強化(中ノ口川の堤防整備、河道掘削)

●中ノ口川築堤・河道掘削

・H23出水対応として、計画堤防高不足区間の暫定嵩上げ(越水対策)、完成形による築堤(漏水対策)、及び河道掘削(水位低下対策)を実施中。暫定嵩上げは概ね完了。

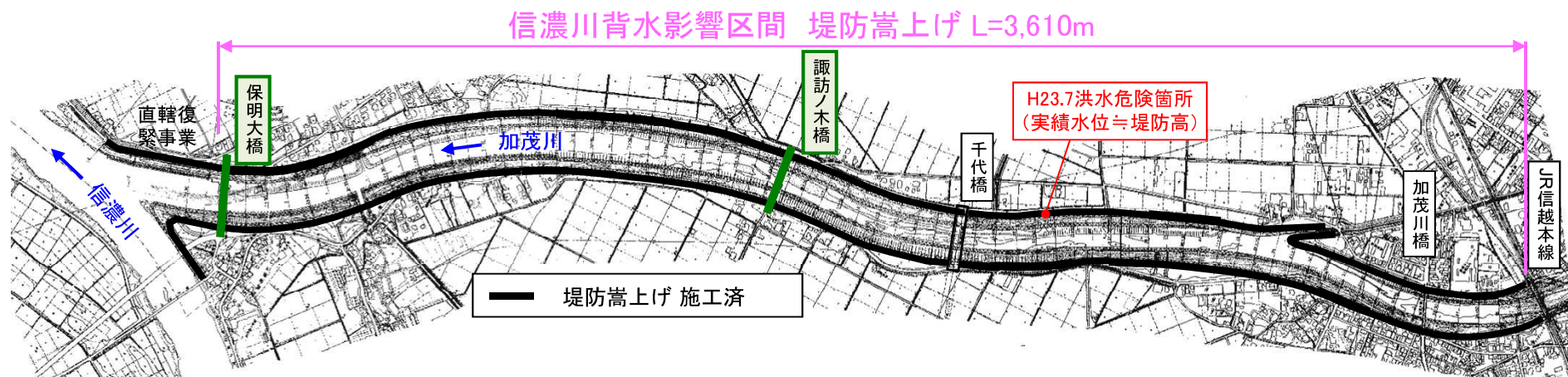


新潟県の取組(ハード対策)

洪水氾濫を未然に防ぐ対策の強化(支川堤防整備)

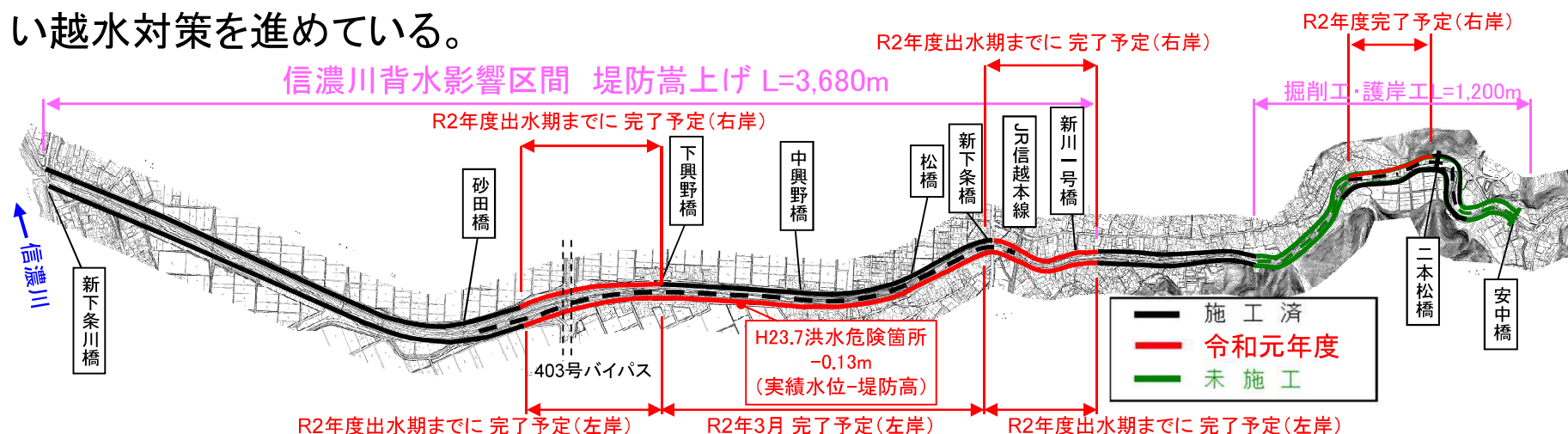
●加茂川の堤防整備

- ・信濃川の背水区間における堤防の嵩上げ(越水対策)が完了。



●下条川の河川改修

上流の河道改修を進めるとともに、信濃川の背水区間において堤防の嵩上げをおこない越水対策を進めている。



リスク情報の空白地帯の解消

●想定最大規模の洪水浸水想定区域図の作成・公表

- ・水防法第14条に基づく、洪水予報河川及び水位周知河川における洪水浸水想定区域図の公表は完了。(平成30年11月20日公表 県内35河川、うち信濃川下流圏域8河川)
- ・今後もリスク情報の空白地帯の解消に向けて浸水想定区域図の公表を実施する。

令和元年10月31日までに公表している河川(圏域内18河川 ☆が洪水予報河川及び水位周知河川 赤字が今年度に新たに公表した河川)

中ノ口川 ☆	小阿賀野川 ☆	能代川 ☆	加茂川 ☆	下条川 ☆
五十嵐川 ☆	刈谷田川 ☆	猿橋川 ☆	荻曾根川	滝谷川
大正川	布施谷川	鹿熊川	塩谷川	稲葉川
才歩川	山田川	五社川		

令和2年度出水期までの公表を目標としている河川(圏域内14河川)

新川	広通川	西山川	木山川	大通川
大通川放水路	飛落川	通船川	栗ノ木川	鳥屋野潟
鳥屋野潟放水路	東大通川	牧川	西川	

新潟県の取組(ソフト対策)

河川監視体制の強化と確実な避難行動につながる情報提供の充実

●危機管理型水位計及び簡易型河川監視カメラの設置推進

氾濫が発生する可能性が高く、人家や重要施設に影響のある箇所を対象に設置を推進し、水位及び画像情報を新たに提供

→身近な中小河川の水位及び画像情報が充実

【圏域内の設置済み箇所数 括弧内は全体計画数】

危機管理型水位計 N=19箇所(N=41箇所)

簡易型河川監視カメラ N= 0箇所(N=43箇所)



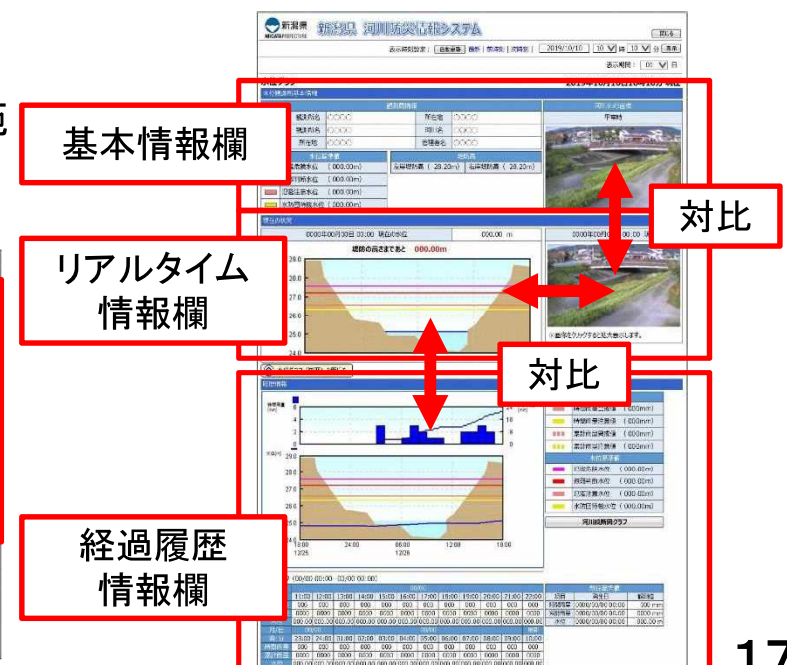
危機管理型水位計

簡易型河川監視カメラ



●新潟県河川防災情報システムの改良

- ・視認性向上及び操作性向上のため、画面の全面改良を実施
- ・令和2年度出水期前までにカメラ画像を公開予定



(様式2-取組概要)

カテゴリー	自治体関係機関や水防団が参加した洪水に対するリスクの高い箇所の合同巡視の実施
内 容	重要水防箇所の合同巡視
実施主体	新潟地域振興局地域整備部

【実施概要】

新潟地域整備部では、水害の未然防止及び災害発生時の連絡・連携を深めることを目的に、新潟市の関係所属と重要水防箇所の巡視点検等を合同で実施。

中ノ口川の水防重点区間を現地で点検することにより、参加者の水防計画図の実際の位置及び状況の把握と危険となる要因の理解共有が図られた。

- ・ 実施日：令和元年6月14日（金）
- ・ 参加数：18名（県：2名、市：16名）



堤防高不足の箇所を確認



堤防断面不足の箇所を確認

(様式2-取組概要)

カテゴリー	小中学校等における水防災教育を実施
内 容	能代川河川改修事業を題材に小学校で出前講座を実施
実施主体	新潟地域振興局新津地域整備部

新津地域整備部では、小学生に対し学校の近くを流れる能代川の水害や河川改修の歴史などについて出前講座を実施。

【実施概要】

- ・ 実施内容 : 管内の小学校に対し過去の水害や河川改修などについて出前講座を実施
- ・ 新潟市立新津第二小学校 : 令和元年 6月 6日 5年生 62名
- ・ 新津市立結小学校 : 令和元年 6月26日 4年生 120名
- ・ 五泉市立大蒲原小学校 : 令和元年 10月 2日 4年生 9名
- ・ 実施効果 : ① 身近な河川の特性について学習
② 地域の水害や河川改修の歴史、水害リスクについて学習



新津第二小学校（5年生）出前講座



結小学校(4年生)出前講座



大蒲原小学校（4年生）出前講座

(様式2-取組概要)

カテゴリー	住民の防災意識を高め、地域の防災力の向上を図るための自主防災組織の充実
内 容	「防災講演会～加茂川水害から50年」を開催
実施主体	三条地域振興局地域整備部、加茂市

【防災講演会～加茂川水害から50年】

- ・ 目 的：地域住民の防災意識や地域防災力の向上を図る
- ・ 日 時：令和元年8月3日（土）14:00～16:00
- ・ 対 象：地域住民ほか 約200名
- ・ 内 容：加茂川水害の記録映像の上映、加茂市から洪水ハザードマップの説明、青陵大学大学院の碓井教授から特別講演のほか、加茂川水害・復興工事のパネル展示



(様式2-取組概要)

カテゴリー	自治体関係機関や水防団が参加した洪水に対するリスクの高い箇所の合同巡視の実施
内 容	三条市との重要水防箇所の合同巡視
実施主体	三条地域振興局地域整備部

三条地域整備部では、迅速な水防対応を行うため、三条市と合同で重要水防箇所の巡視をおこないました。

【実施概要】

- ・ 日 時：令和元年7月1日（月）13:30～15:30
- ・ 参加者：三条市消防団、消防本部、建設課、三条地域整備部治水課
- ・ 内 容：①重要水防箇所の確認（五十嵐川、布施谷川）
②五十嵐川遊水地操作訓練



(様式2-取組概要)

カテゴリー	小中学校等を対象とした水防災教育の実施
内 容	出前講座(水害教育)の実施
実施主体	三条地域振興局地域整備部

【出前講座1】令和元年4月16日(火)本成寺中学校2年生93名

・内 容: 水害時の土木の役割について説明

【出前講座2】令和元年6月26日(水)大崎学園4年生92名

・内 容: 五十嵐川の概要、過去の水害、護岸整備について説明、川が増水した時の注意事項について説明

【出前講座3】令和元年11月21日(木)田上町立田上小学校4年生29名

・内 容: 才歩川の概要、護岸整備について、川が増水した時の注意事項について説明



(様式2-取組概要)

カテゴリー	国・県・自治体職員等を対象に、水防工法演習を実施
内 容	水防工法演習を河川現場で実践体験し、水防技術の研鑽と次世代への継承を行う。
実施主体	三条市消防本部、県立新潟県央工業高校、三条地域振興局地域整備部、新潟県建設業協会三条支部

【水防技術講習会】

- ・ 目 的：水防技術の研鑽と水害時の対応力強化、将来実務に携わる次世代への技術継承
- ・ 日 時：令和元年6月10日（月）13:30～15:30
- ・ 対 象：県立新潟県央工業高校 16名、三条市建設業協会青年部 6名
三条地域振興局地域整備部 13名、新潟県建設業協会三条支部 25名
- ・ 内 容：三条市消防本部職員の指導により、水防工法のひとつ「月の輪工」の演習を実施



(様式2-取組概要)

カテゴリー	小中学校等を対象とした水防災教育の実施
内 容	出前講座(水害教育)の実施
実施主体	長岡地域振興局地域整備部

- ・ 日 時：令和元年7月8日（月）
- ・ 場 所：刈谷田川遊水地
- ・ 対 象：見附市立名木野小学校5年生51名 他教員数名
- ・ 内 容：平成16年7.13水害の被害状況、刈谷田川遊水地の機能を説明
平成23年新潟福島豪雨時の遊水地の効果等、遊水地施設について現地説明

- ・ 日 時：令和元年10月31日（木）
- ・ 場 所：柿川放水路
- ・ 対 象：長岡市立千手小学校6年生57名 他学校職員3名
- ・ 内 容：平成23年新潟福島豪雨の被害状況、柿川放水路の概要及び効果等を説明



7月8日 名木野小学校



10月31日 千手小学校

(様式2-取組概要)

カテゴリー	毎年、関係機関が連携した水防実働訓練等を実施
内 容	刈谷田川遊水地内に越流を想定した安全施設の作動訓練
実施主体	長岡地域振興局地域整備部

遊水地内に越流した事を想定した安全施設の作動訓練の実施、及び見附市防災用サイレン音と遊水地内サイレン音の区別を関係地区に周知させることを目的としている。

【作動訓練】

- ・ 日 時：令和元年6月9日
- ・ 出席者：新潟県長岡地域整備部治水課2名、樋門操作委託業者8名、電気設備点検業者1名
- ・ 内 容
 - ①樋門閉扉前遊水地内パトロール（ルート確認及びパトロール完了までのタイム計測）
 - ②安全周知【レベル1】：回転灯、避難アナウンス、疑似音
 - ③遠方操作室からの各種樋門開閉作動確認
 - ④安全周知【レベル2】：避難アナウンス、サイレン吹鳴

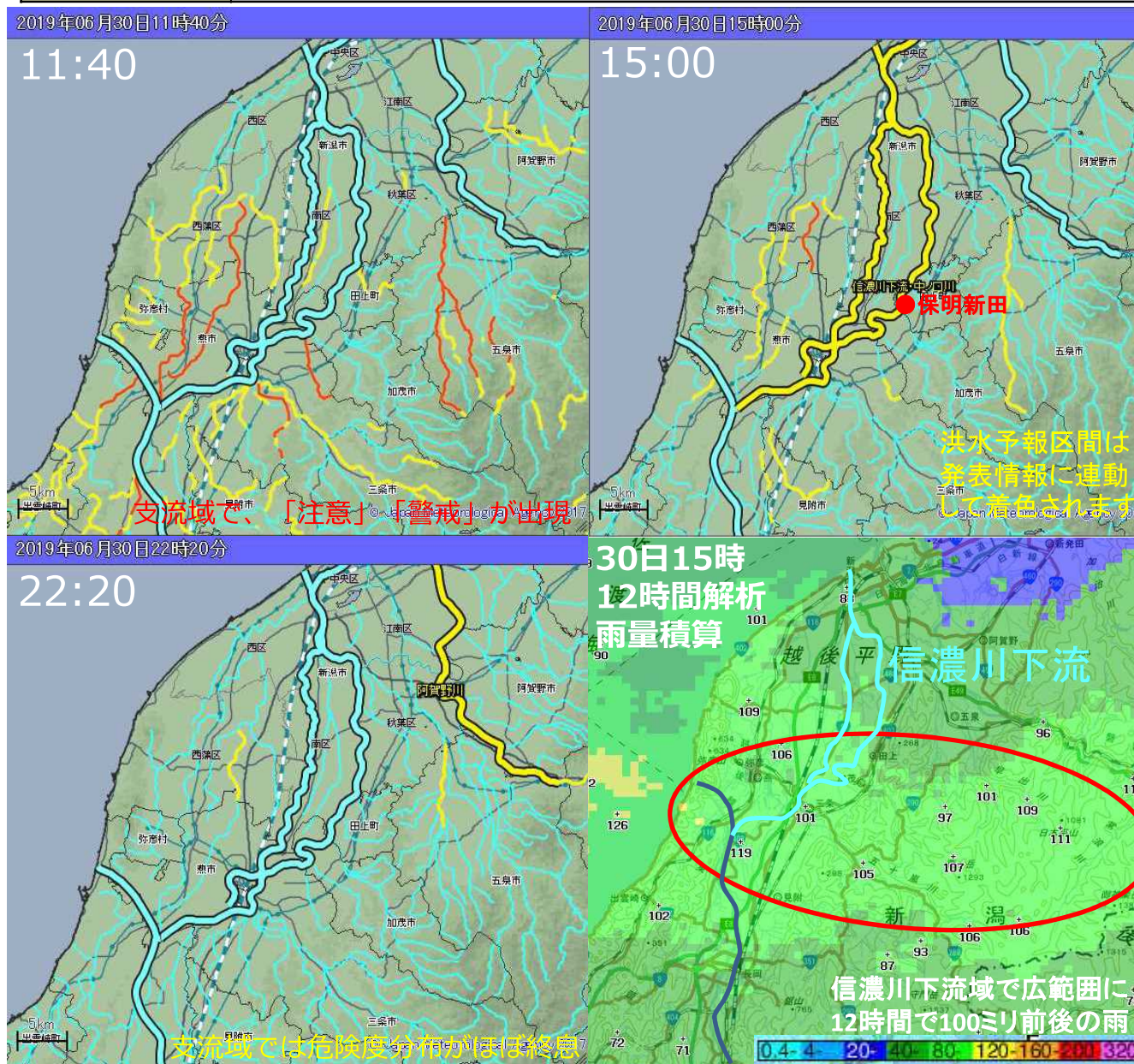


遊水地施設作動訓練前打合せ



遠隔操作による各種樋門の作動確認

カテゴリ	■情報伝達、避難計画等に関する事項 ⑪流域雨量指数(洪水警報の危険度分布)を活用した水害危険性周知を検討
内 容	流域雨量指数(洪水警報の危険度分布)を活用した水害危険性周知を検討
実施主体	新潟地方気象台



信濃川下流で氾濫注意情報発表

6月30日は梅雨前線上の低気圧が北陸地方を通過した影響で激しい雨となり、30日15時までの12時間で信濃川下流域の広範囲で100ミリを超える雨となった。

11:40 信濃川本流の水位上昇に先んじて、支流域で、「注意」「警戒」が出現し始める。

15:00 信濃川下流・中ノ口川氾濫注意情報発表に連動して洪水予報区間が黄色に着色される。

22:20 信濃川下流・中ノ口川氾濫注意情報解除に連動して洪水予報区間から着色が消え、支流域では危険度分布がほぼ終息。

下流域での大雨により保明新田の注意水位超過となった。本流の水位上昇に先んじて、支流から危険度が上がり、本流に雨水が流下しきると、次第に危険度が下がる様子が分かる事例。

指定河川洪水予報

国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな被害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。

高	氾濫発生情報
危険度	氾濫危険情報(『避難勧告』相当)
低	氾濫警戒情報(『避難準備・高齢者等避難開始』相当)
	氾濫注意情報
	発表なし

洪水警報の危険度分布

高	極めて危険
危険度	非常に危険(氾濫注意水位等を超えていれば『避難勧告』相当)
低	警戒(水防団待機水位等を超えていれば『避難準備・高齢者等避難開始』相当)
	注意
	今後の情報等に留意

カテゴリー	■情報伝達、避難計画等に関する事項 ②関係機関と連携した防災行動計画（タイムライン）の整備 ①流域雨量指数（洪水警報の危険度分布）を活用した水害危険性周知を検討
内 容	県内全市町村への首長訪問実施と地域防災計画改定支援の実施
実施主体	新潟地方気象台

県内全市町村への首長訪問実施と地域防災計画改定支援の実施

【実施概要】

- ・ 日 時：令和元年4月～8月
- ・ 内 容：3月の避難勧告等に関するガイドライン（内閣府）改定を受けて、洪水警報の危険度分布活用に向けた地域防災計画の改定支援を実施。

【台長による首長との懇談】

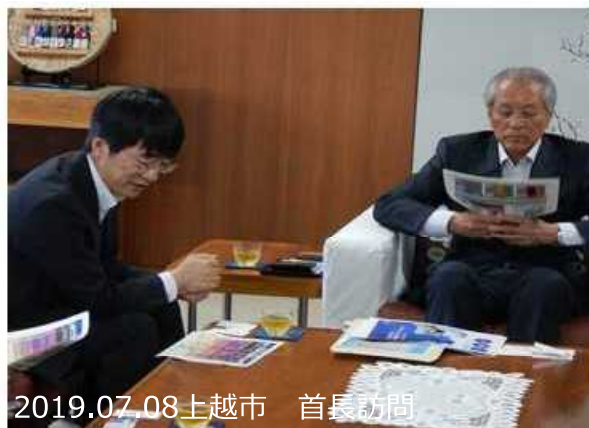
- ・ 避難勧告ガイドライン改定（危険度分布の活用）、ホットライン運用による支援などを台長自らが首長に解説することでトップ間の連携強化と信頼関係の構築を促進した。

【防災担当者との打ち合わせ】

首長訪問に合わせて、さらに各市町村の防災担当者と気象台担当で避難レベル導入に伴う、流域雨量指数（危険度分布）の地域防災計画への反映についての改定支援を実施した。



2019.06.05新潟市 首長訪問



2019.07.08上越市 首長訪問



2019.07.22三条市 防災担当者打合せ

カテゴリー	■ 平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組 ⑤ 効果的な「水防災意識社会」の再構築に役立つ広報や資料（浸水実績含む）を作成・配布
内 容	洪水警報の危険度分布広報グッズ「危険度分布ルービックキューブ」の配布
実施主体	新潟地方気象台

ポスター「危険度分布ルービックキューブ」の配布

【実施概要】

- ・ 日 時：令和元年8月末までに県内市町村の防災担当者に配布済。
- ・ 内 容：気象庁では、雨による災害発生の危険度を地図上に表示する「洪水警報の危険度分布」等を提供しています。危険度分布のレベル（色）と取るべき行動を日ごろから身近に感じて頂くため、「危険度分布ルービックキューブ」を県内全市町村に配布した。

いつも手元において、危険度の色で直感的に取るべき行動を思い浮かべるのに便利だとの声が多かった。

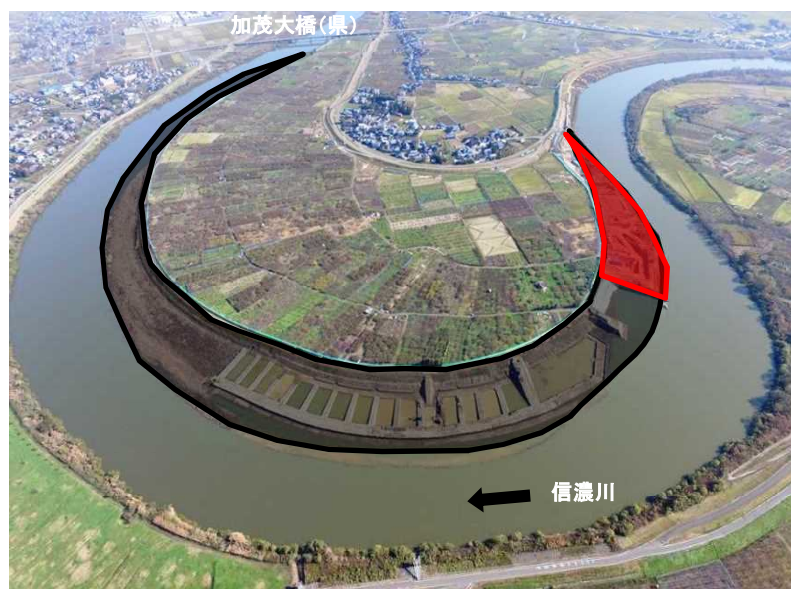


(様式2-取組概要)

カテゴリー	1. ハード対策の主な取組 ■洪水を河川内で安全に流す対策 ・河道掘削
内 容	洪水を安全に流すためのハード対策の推進（山島新田地区、栗林・大島地区）
実施主体	国土交通省信濃川下流河川事務所

【実施概要】洪水を安全に流すためのハード対策として河道掘削を実施しており、令和元年度は山島新田地区、栗林・大島地区、戸石地区、東新潟地区で河道掘削を進めています。

山島新田地区(H27～R1完了予定) 進捗率 約9割



山島新田地区 河道掘削状況

栗林・大島地区(H28～) 進捗率 約5割



大島地区 河道掘削状況



栗林地区 河道掘削状況

凡 例	
	H30まで実施
	R1実施

(様式2-取組概要)

カテゴリー	新技術を活用した水防資機材の検討及び配備
内 容	水防訓練における実演
実施主体	国土交通省 信濃川下流河川事務所

【実施概要】

少子化、高齢化に伴う水防団の負担を軽減するため、簡易化・省力化を目指した水のう工法の実演を信濃川下流水防訓練において実施し、参加水防団からは多くの見学者があった。

- ・ 実施日：令和元年6月2日(日)
- ・ 参加数：約300名



水のう工法の展示



設営のデモ

(様式2-取組概要)

カテゴリ	円滑な避難活動や水防活動を支援するため、CCTVカメラ、簡易水位計や量水標等の設置を行う
内 容	簡易型河川監視カメラ設置
実施主体	国土交通省 信濃川下流河川事務所

【実施概要】

洪水時に特化した低コストな簡易型河川監視カメラを**5箇所**に設置する。
これにより河川監視体制の充実を図る。



- 高速画像通信
『LTE通信モジュール内蔵』
- 独立電源一体型
『ソーラーパネル・バッテリーで駆動』
- スケジュール機能
『一定間隔の自動撮影可能』
- 寒冷地対応
『動作温度範囲-20℃～』

